



令和8年度岩手医科大学入学式が挙行されました 広報委員長 黒瀬 雅之



歯学研究科入学生代表宣誓を行う小原康輔さん



歯学部入学生代表宣誓を行う小野寺美月さん

2026年4月9日（木）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールにて、令和8年度岩手医科大学入学式が厳粛に執り行われました。式典には、法人役員や教職員に加え、多くの保護者の方々にもご臨席いただき、新入生の門出を温かく見守っていただきました。

今年度は、大学院医学研究科博士課程23名・修士課程5名、歯学研究科博士課程5名、薬学研究科博士課程3名、さらに学部では、医学部130名・3年次編入学2名、歯学部44名・2年次編入学2名、薬学部37名、看護学部81名・3年次編入学2名の新入生を迎えました。

雲一つない晴天に恵まれ、やや咲き始めた桜の中、スーツに身を包んだ新入生の方の初々しくも引き締まった表情に、我々も、これからの6年間で全力でサポートしていこうと、改めて決意を新たにする一日となりました。

新入生の皆さんが、多くの知見を吸収し、豊かな人間性を育んでいけるよう、共に歩んでまいります。

地域医療を支える歯科医師へ

歯学部長 小林 琢也 教授

第62期生の皆さん、岩手医科大学歯学部へのご入学、誠におめでとうございます。わが国では歯科医師数が減少に転じる一方、歯科医療提供体制の地域格差が広がり、地域医療を担う歯科医師の役割はこれまで以上に重要になっています。本学では、医学部・歯学部・薬学部・看護学部の4学部を擁する医療系総合大学の強みを生かし、多職種と連携しながら、患者さんの生涯にわたる健康と地域の暮らしを支える力を育む多様な教育を展開しています。専門的な知識と技術だけでなく、人に寄り添う心と広い視野を身につけることも大切です。これからの6年間、仲間と学び、互いに高め合いながら、地域の人々に信頼される歯科医師を目指して、一緒に歩んでいきましょう。



入学に寄せて



62期生 1年次副担任
今 一裕 教授

62期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

岩手医科大学は建学の精神である「誠の医療人」の育成を理念に掲げ、長年にわたり地域医療を支える多くの医療人を輩出してきました。歯科医師には、確かな知識と技術に加え、人々に寄り添い、信頼される豊かな人間性が求められます。

これから始まる大学生活では、日々の学修や実習、仲間との交流を通して、自ら考え、学び続ける姿勢を育み、大きく成長されることを期待しています。時には困難に直面することもあるでしょう。しかし、それらを乗り越えた経験は、皆さんを「誠の医療人」へと導くかけがえのない財産となります。教職員一同、皆さんの歩みを温かく見守り、支えてまいります。

実り多い6年間となることを心より祈念いたします。

第62期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。皆さんはこの4月から、歯科医師を目指すとともに、一人の医療人としての第一歩を踏み出しました。これからの6年間では、専門知識や技術を身につけることはもちろん、人を思いやる心や豊かな人間性を育ててほしいと願っています。

大学生活は勉学だけでなく、研究室での研究や部活動、学友との交流など、多くの経験を積むことのできる貴重な時間です。さまざまなことに積極的に挑戦し、多くの人との出会いを大切にしながら、充実した学生生活を送ってください。

私たち担任も、皆さん一人ひとりが安心して学び、それぞれの夢や目標に向かって成長していけるよう、精一杯支えてまいります。6年間が実り多く、かけがえのない時間となることを心より願っています。どうぞよろしくお願いいたします。



62期生 1年次副担任
入江 太郎 教授

岩手医科大学附属病院(矢巾)の新体制

副院長 山田 浩之

口腔医療センターは、矢巾附属病院の歯科外来をリニューアルして2026年4月に設立されました。これまでの入院患者さんの診療に加えて、小児歯科、障がい者歯科、歯科麻酔科、口腔外科の外来新患受付を完全予約制で開始しております。周術期の口腔機能管理、摂食嚥下リハビリテーション、鎮静剤を用いた歯科治療等、様々な事例に応じて他の診療科と連携しながら、専門性の高い患者ファーストのチーム医療を提供できるよう努めております。今後も内丸と矢巾の両センターで柔軟に連携を取りながら歯科の2病院体制を維持してまいります。

歯科医療センター（内丸）の新体制

歯科医療センター長 泉澤 充

令和8年4月、歯科医療センターは口腔外科学分野、歯科麻酔学分野、小児歯科・障害者歯科学分野の4分野が矢巾へ移転となり、新たな体制でスタート致しました。診療部門は減少致しましたが、歯科医療センターに求められる役割や責任はむしろ一層大きくなっております。今後も医療機関との連携を推進し、専門性の高い歯科医療を通じて地域医療に貢献するとともに、学生や若手歯科医師の臨床教育の充実にも力を注いでまいります。新体制を機に、患者さんに安心して受診いただける歯科医療センターを目指し、職員一同、より一層努力してまいります。

2年生 宮澤 美優さん

大学に入学してから、早くも約1年半が経ちました。歯学部に入學し、歯科医師になるための学修に向けて胸を高鳴らせていたのを、今でも鮮明に思い出します。

2年生になってからは、専門科目の基礎の積み重ねが始まりました。1年生の後期の専門科目の知識がつながり始めてやりがいを感じながらも、同時に不安と焦りも抱えています。学修内容は1年生の頃の比ではなく、到達度試験を通してようやく学修についていけています。ときどき、今後の学修がついていけるかという不安に押し潰され、心が折れそうになるのですが、同じ目標に向けて学ぶ友達と励まし合い、気持ちを新たにしていっています。

後期では実習が入ってくる科目も多くあるため、かなり緊張しています。しかし、部活をしたり、友達とご飯を食べに行ったり、遊びに行ったりと息抜きをしながら、今後私たちが背負っていくであろう責任感を育んでいきたいです。

6年生 折笠 綾さん

「憧れるのをやめましょう。」
——2023年WBCで大谷翔平選手は、憧れの相手は越えられないと語りました。一方、私の大学生活において、憧れは成長への支えでした。歯科医師である父や身近な歯科医師の方々への憧れ、準硬式野球部顧問の石崎明先生との出会いから始まった6年間。多くの先生方や先輩方、事務職員の皆様、同期や後輩たちとの「縦と横のつながり」に支えられ、周りの方々への憧れが私を成長させてくれました。



写真は、準硬式野球部OB会の皆様に全国優勝を祝っていただいた際の一枚です。OBOGの皆様のご尽力により、勝利の喜びを分かち合えたことに心から感謝しております。次代を担う後輩たちには、量を大切に、自分たちの可能性を信じ続けてほしいです。これからはOBの一員として、皆さんの活躍を楽しみにしています。

私にとって憧れは、成長への原動力でした。6年間でいただいた学びと出会いを胸に、これからも憧れの方々の背中を追い、その憧れを力に変え、いつか自分も誰かの憧れとなれるよう歩み続けていきます。

ベトナムでの医療ボランティア活動

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野
准教授 大橋 祐生

当分野では、2016年からベトナムのベンチェ省（現在はヴィンロン省ベンチェ市）での口唇口蓋裂患者へのボランティア手術支援活動に参加しております。本事業は日本口唇口蓋裂協会が約30年前行っている事業で、日本の全国各地から口腔外科医、小児科医、麻酔科医、看護師が現地に集結し、総勢約40名の参加者で無償手術を行います。現地に10日ほど滞在している間、約7日間にわたり、連日朝から晩まで口唇口蓋裂の手術を行います。言葉が通じない中で緊張感のある環境での手術ですが、術後の患者や母親の喜ぶ姿に救われ、医療の本質に触れることができる貴重な機会だと感じております。引き続き貢献できるように活動が続けたいと思います。



新任教授のご挨拶

東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再構築学講座歯髓生物学分野 教授 八幡 祥生



この度、2025年5月1日付で、東京科学大学大学院医歯学総合研究科口腔機能再構築学講座歯髓生物学分野の教授を拝命いたしました、岩手医科大学歯学部35期生の八幡祥生と申します。私は2005年に岩手医科大学歯学部を卒業後、東京医科歯科大学（現・東京科学大学）大学院に進学し、当時臨床応用が始まっていたニッケルチタンファイルの金属材料研究に従事し、現在は世界標準となっている熱処理加工技術の確立に携わる機会を得ました。基礎研究が臨床実装される一連の過程を実体験できたことは、現在の自分にとって大きな財産になっています。大学院修了後は、昭和大学（現・昭和医科大学）、米国West Virginia大学、および

東北大学を経て、顎骨内の炎症動態解析、基礎疾患との臓器間炎症ネットワークの解明、ならびに工学部との連携による新規医療技術開発に従事してきました。いわゆる医工連携による学際的研究の発展と臨床実装は、日本が今後、医療の分野で世界をリードするために欠かせない道筋であり、東京医科歯科大学と東京工業大学の統合も、この未来を見据えたものと考えます。私の所属する歯髓生物学分野は、電気的根管長測定法という医工連携の先駆けとも言える技術を生み出し、日本の歯内療法学を牽引してきた伝統ある教室です。この歴史と実績を継承しつつ、私たちの世代で新たな医療の変革を成し遂げることを目指し、これから真摯に取り組んでいく所存です。岩手医科大学同窓の先生方におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

岩手医科大学歯学部法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 教授 熊谷 章子



2026年4月1日付で法科学講座法歯学・災害口腔医学分野教授を拝命いたしました、本学歯学部第24期生の熊谷章子です。卒後本学には2003～7年に医学研究科（法医学専攻）に大学院生として、修了後は歯学部口腔顎顔面再建学講座に臨床歯科医として10年在籍、ベルギーのルーヴェンカトリック大学（法歯学専攻）留学を経て、2017年に新設された当分野で法歯学および災害口腔医学を専門に従事しています。歯学生時代を含め岩手医科大学で過ごしてきた約30年間を振り返ると、沢山の方々に支えられてきたことを痛感します。今後も教育・研究はもちろん、学外組織との関わりをさらに深めることで、本学から発信できる緊急時対応モデルを構築し、岩手のみならず日本の緊急時に備えてゆかなくてはならない立場にあることを自覚しています。これからも皆様のお力を借りながら成長してゆきたい所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

編集後記：編集委員長 熊谷 美保



このたびの熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興と、安心して日常生活を取り戻されることを願っております。今年6月には盛岡でも強い地震があり、改めて日頃からの備えの大切さを実感いたしました。皆様のご健康と安全を心よりお祈り申し上げます。

発行：岩手医科大学歯学部 編集：広報委員会

本誌に関するご意見・ご要望はkouhou-d@iwate-med.ac.jp まで
写真は執筆者各位の提供により掲載をしております。



Follow me!



@IMU_DENTISTRY